

## 特集 近年注目されている花きの栽培技術

花きの栽培現場では露地や施設など栽培環境が多様であることや、品目により栽培管理方法が多岐に渡ることから栽培様式に合わせて様々な技術導入が試みられている。ここでは近年注目されて

いる花きの栽培技術を紹介する。

玉木 克知（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

### ストックのスプリンクラーによる自動<sup>かん</sup>灌水の効果

ストック栽培での灌水作業は特に夏期に作業者への負担が大きく、問題となっている。そこで、灌水作業の省力化のためにスプリンクラーによる自動灌水の検討を行った。スプリンクラーによる自動灌水では慣行の手灌水と比較して切り花品質に大きな差はみられず、定植後の中耕作業も省略できる。

#### 内容

淡路島のストック栽培では冬咲き作型と春咲き作型を組み合わせた二期作が行われている。夏期の灌水不足は品質低下や開花遅れにつながり、春咲き作型の栽培開始も遅れる。生産者は手灌水で対応しているものの、多大な労力がかかり大きな負担となっている。そこで、2017年に春咲き作型でスプリンクラーによる自動灌水の効果について検討した。品種は「ホワイトアイアン」を使用し、灌水量は手灌水と同程度になるようにタイマー設定を行い、時期に応じて1週間当たり6~16 l/m<sup>2</sup>の範囲で調整した。

その結果、スプリンクラーによる自動灌水の切り花品質は手灌水と差はなかった（図1、2）。また、

スプリンクラーによる灌水では土の表面が固くならず、中耕作業を省略しても切り花品質に影響はなかった（図1、2）。

#### 普及上の注意事項

自動灌水を行うと作業時間は大幅に減少するが、スプリンクラーによる灌水ではハウス内の湿度が高くなりやすい。特に冬期は灌水後、天気の良い日は十分に換気し湿度を下げる。また、灌水量が多いと着<sup>らい</sup>蓄・開花が遅れ、切り花全体のボリュームが大きくなりすぎるため、灌水量を気候に合わせて変更する。

玉木 克知（農産園芸部、前淡路農業部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

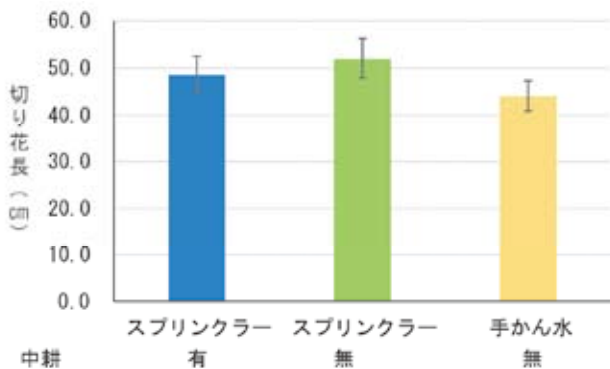


図1 自動灌水による切り花長への影響

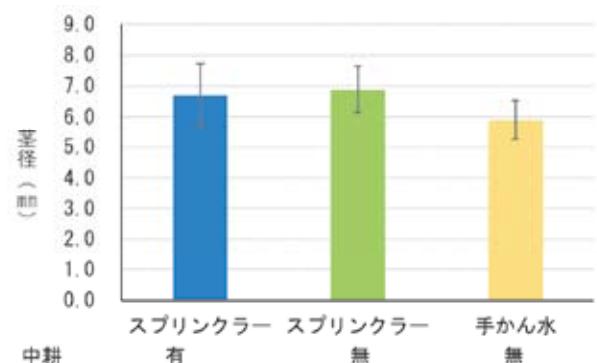


図2 自動灌水による茎径への影響